

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第16回 五感の勧め



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

私は色んなところに行って、写真を撮ることが多いのだが、最近感じるのは、被写体を撮っているというよりも、その場の光を撮っている気がする。このため、色んなところを観て回っていると、太陽の位置を考えながら、撮っていることが多くなった。

そういえば、自分が住んでいない場所の風光や景色を見物することを「観光」と言うので、「観光」の語源を調べてみた。

そうすると、中国の經典である「易経」の一説の「國の光を觀るもって王に賓たるによろし」からきているらしい。この意味は「その地の自然や文化、産物、風俗、政治、暮らしなどの『光』をよく『観て』、この『光』が優れている国の王に賓客（ブレイン）となって重用されるのが良い」とのこと。

ということもあってか、風光明媚な場所を巡っていると、五感のうちの「観る」が中心になっているような気がする。

ところが、「五感で感じろ」という言葉があるように、「観る」だけでなく「聞く」、「嗅ぐ」、「味わう」、「触れる」の感覚も大事だと強く思った場所に出会った。

それは、岩手県大船渡市に行った時のこと。大船渡市には、波で磨かれた黒い玉砂利が敷き詰められた「碁石浜」という砂浜がある「碁石海岸」があると聞いて行ってみた。「碁石浜」はさほど波が強くないのだが、その東側にあるリアス式海岸に「雷岩」という大きな岩がある。そこに行ってみて、断崖の上から観てみると、雷鳴のような海鳴りが聞こえるのだ。そう、「バリバリ、バリバリ」という感じに。大きな岩に波が押し寄せて洞窟ができ、その洞窟に波が打ち寄せて、その空気が圧縮されて、雷のような音が聞こえるのだ。

また、同じようなことを宮城県気仙沼市でも経験した。唐桑半島に「半造」という場所があるが、そこを散策していると、海辺の高台の地面から異様な唸りと潮風が吹き出し始めるのだ。そう、「うー、うー、うー」という感じに。ススキが単に植わっている地面から聞こえてくるので、何とも恐ろしい感じがする。近くのパネルに「このあたりの地下には、大地の変動により縦横に大小の洞窟ができおり、地表の小さな穴とつながっています。地下の洞窟に波が打ち寄せると、その風圧で地表の穴から異様な唸りと潮風が吹き出します」と書いてあって、一安心（笑）。そっかあ、見えないけれども、地下で海に面した洞窟と地表の穴が繋がっているんだあ！

そこで、少し調べてみた。そうすると、環境省が「残したい日本の音風景100選」のほか、「かおり風景100選」を選定している。そして、岩手県大船渡市の「雷岩」は「音風景100選」に入っているのだ。そして、東北地方からは前者に18カ所、後者に14カ所、選定されている。

この二つの百選は「聞く」、「嗅ぐ」の分野だが、色んなところを回っていると、その土地の美味しい食事を「味わう」、そこに住んでいる人の人情やその地域の空気に「触れる」ということが多いと思う。

皆さん、東北の様々な場所に行ってみて、その場所を「五感」で感じてみてはいかがでしょうか？

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年（昭和44年）生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任